

特定行為研修

感染に係る薬剤投与関連

山梨県立大学

指導者一覽

感染に係る薬剤投与関連

| 氏名 | 所属／職位 | |
|--|--|--|
| <p>講義 平田 修司 窪川 佳世</p> | <p>このはな産婦人科 理事 医師/山梨大学医学部 名誉教授 山梨県立大学 認定看護師教育課程〈感染管理〉/特任講師</p> | |
| <p>演習 平田 修司 窪川 佳世 林 尚三 小林 智子 実習</p> | <p>このはな産婦人科 理事 医師/山梨大学医学部 名誉教授 山梨県立大学 認定看護師教育課程〈感染管理〉/特任講師 富士病院 看護部 集中ケア認定看護師/特定行為研修修了看護師 石和共立病院 師長室 感染管理認定看護師/特定行為研修修了看護師</p> | |
| <p>平田 修司 窪川 佳世 片山 充哉 森泉 元 利光 恵利子 井上 修 鈴木 哲也 三河 貴裕 夏目 康行 池田 督司 高取 美香 宮本 和馬 鷹野 陽平 三枝 杏子 但田 佳那 三森 加奈子 小池 貴之 内田 雪妃 山本 慎也 田中 青流 田中 美緒 植田 晋介 伊藤 紗綾香 玉岡 成文 山本 和哉 林 尚三</p> | <p>このはな産婦人科 理事 医師/山梨大学医学部 名誉教授 山梨県立大学 認定看護師教育課程〈感染管理〉/特任講師 東京医療センター 感染症科医師 東京医療センター 診療看護師 東京医療センター 診療看護師 山梨大学医学部附属病院 感染制御部部長 山梨大学医学部附属病院 感染症学講座特任講師 山梨県立中央病院 総合診療・感染症科部長 山梨県立中央病院 主任看護師 山梨県立中央病院 集中治療科部長 山梨県立中央病院 副看護師長 山梨県立中央病院 主任看護師 山梨県立中央病院 主任看護師 山梨県立中央病院 看護師 山梨県立中央病院 看護師 山梨県立中央病院 主任看護師 山梨県立中央病院 主任看護師 山梨県立中央病院 看護師 山梨県立中央病院 看護 山梨県立中央病院 主任看護師 山梨県立中央病院 看護師 富士病院 富士病院 医長 富士病院 主任 富士病院 富士病院 師長</p> | |

講師一覧

感染に係る薬剤投与関連

| 特定行為区分 | 感染に係る薬剤投与関連 | | |
|-------------------------|--|-------|--------------------------------------|
| | 学ぶべき事項 | 講師 | 所属 |
| (共通)感染に係る薬剤投与関連の基礎知識 | 感染症の病態生理(1) | 加藤 英明 | 横浜市立大学附属病院感染制御部 |
| | 感染症の病態生理(2) | 加藤 英明 | 横浜市立大学附属病院感染制御部 |
| | 感染症の病態生理(3) | 三村 一行 | 東邦大学医学部微生物・感染症学講座 |
| | 感染症の病態生理(4) | 小野 大輔 | 東邦大学医学部微生物・感染症学講座 |
| | 感染症の主要症候と主要疾患(1) | 渋江 寧 | 横浜市立みなと赤十字病院感染症科 |
| | 感染症の主要症候と主要疾患(2) | 渋江 寧 | 横浜市立みなと赤十字病院感染症科 |
| | 感染症の主要症候と主要疾患(3) | 渋江 寧 | 横浜市立みなと赤十字病院感染症科 |
| | 感染症の主要症候と主要疾患(4) | 根本 隆章 | 川崎幸病院感染制御科 |
| | 感染症の主要症候と主要疾患(5) | 根本 隆章 | 川崎幸病院感染制御科 |
| | 感染症の診断方法(1) | 西田 裕介 | 埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科 |
| | 感染症の診断方法(2) | 西田 裕介 | 埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科 |
| | 主要感染症の診断方法(1) | 岡 秀昭 | 埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科 |
| | 主要感染症の診断方法(2) | 岡 秀昭 | 埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科 |
| | 主要感染症の診断方法(3) | 岡 秀昭 | 埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科 |
| | 主要疾患のフィジカルアセスメント | 林 良典 | 順天堂大学医学部 総合診療科 / NTT 東日本関東病院予防医学センター |
| (A)感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与 | 抗生剤の種類と臨床薬理(1) | 吉田 明弘 | 福井厚生病院薬剤部 |
| | 抗生剤の種類と臨床薬理(2) | 吉田 明弘 | 福井厚生病院薬剤部 |
| | 各種抗生剤の適応と使用方法(1) | 金井 威 | 群馬県立公立富岡総合病院薬剤部 |
| | 各種抗生剤の適応と使用方法(2) | 金井 威 | 群馬県立公立富岡総合病院薬剤部 |
| | 各種抗生剤の副作用(1) | 永井 徹 | 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部 |
| | 各種抗生剤の副作用(2) | 永井 徹 | 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部 |
| | 感染徴候がある者に対し使用するその他の薬剤の種類と臨床薬理 | 原 弘士 | 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部 |
| | 感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の適応と使用方法 | 原 弘士 | 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部 |
| | 感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の副作用 | 永井 徹 | 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部 |
| | 感染徴候がある者に対する薬剤投与のリスク(有害事象とその対策等) | 原 弘士 | 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部 |
| | 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む):肺炎 | 岡 秀昭 | 埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科 |
| | 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む):尿路感染症 | 岡 秀昭 | 埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科 |
| | 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む):CDI | 原 弘士 | 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部 |
| | 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む):MRSA | 原 弘士 | 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部 |

研修概要

| | | |
|-------|---|--|
| 科目名 | 感染に係る薬剤投与関連 | |
| 特定行為名 | 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与 | |
| 研修内訳 | 講義(25 時間) | 視聴時間 45 分+講義確認テスト 15 分 |
| | 演習(4 時間) | 視聴時間(イントロ)5 分+グループワーク 45 分+視聴時間(解説)10 分 ※ 演習は e-ラーニング教材を活用して指定研修機関で行う |
| | 試験(1 時間) | 科目試験合計 60 分 感染にかかる薬剤投与関連の基礎知識 30 分 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与 30 分 |
| 評価方法 | 講義:e-ラーニングの受講及び講義確認テスト | |
| | 演習:ペーパーシミュレーションによる演習及び模擬講義 | |
| | 試験:e-ラーニング上もしくは集合で実施 | |
| 参考図書 | ※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. 青木真, レジデントのための感染症診療マニュアル 第 4 版, 医学書院, 2020. 2. 岡秀昭, 感染症プラチナマニュアル 2020, メディカルサイエンスインターナショナル, 2020. 3. 公益社団法人日本化学療法学会/一般社団法人日本感染症学会 CDI 診療ガイドライン作成委員会, <i>Clostridioides (Clostridium) difficile</i> 感染症診療ガイドライン, 2020, Vol. 68, no.1, p.1-107. | |
| 備考 | * e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。 | |

感染に係る薬剤投与関連

| | | | |
|-----------------------|---|------|----------|
| 科目名 | 感染にかかる薬剤投与関連 | | 30 時間 |
| 特定行為名 | 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与 | | |
| 指導者 | 平田 修司(講義)、窪川 佳世(講義) | | |
| 概要 | 感染徴候時の病態生理や主要疾患の特徴を理解し、安全に薬剤の臨時の投与を実践できる看護師を養成する。 | | |
| 単 元 | 時間 | 講義形態 | 講師 |
| (共通)感染にかかる薬剤投与関連の基礎知識 | | | |
| 1) 感染症の病態生理 ① | 1 | 講義 | 加藤 |
| 2) 感染症の病態生理 ② | 1 | 講義 | 加藤 |
| 3) 感染症の病態生理 ③ | 1 | 講義 | 三村 |
| 4) 感染症の病態生理 ④ | 1 | 講義 | 小野 |
| 5) 感染症の主要症候と主要疾患 ① | 1 | 講義 | 渋江 |
| 6) 感染症の主要症候と主要疾患 ② | 1 | 講義 | 渋江 |
| 7) 感染症の主要症候と主要疾患 ③ | 1 | 講義 | 渋江 |
| 8) 感染症の主要症候と主要疾患 ④ | 1 | 講義 | 根本 |
| 9) 感染症の主要症候と主要疾患 ⑤ | 1 | 講義 | 根本 |
| 10) 感染症の診断方法 ① | 1 | 講義 | 西田 |
| 11) 感染症の診断方法 ② | 1 | 講義 | 西田 |
| 12) 主要感染疾患の診断方法 ① | 1 | 講義 | 岡 |
| 13) 主要感染疾患の診断方法 ② | 1 | 講義 | 岡 |
| 14) 主要感染疾患の診断方法 ③ | 1 | 講義 | 岡 |
| 15) 主要疾患のフィジカルアセスメント | 1 | 講義 | 林 |
| | | | 平田 窪川 |

感染に係る薬剤投与関連

| 特定行為名 | 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与 | | | |
|---|--|------|-----|----------------|
| 指導者 | 平田 修司(講義・演習)、窪川 佳世(講義・演習)、林 尚三(演習)、小林 智子(演習) | | | |
| 概要 | 医師の指示の下、手順書により、身体所見(尿混濁の有無、発熱の程度等)及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、感染徴候時の薬剤を投与する。 | | | |
| 単元 | 時間 | 講義形態 | 講師 | 指導者 |
| (A)感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与 | | | | |
| 1) 抗生剤の種類と臨床薬理(1) | 1 | 講義 | 吉田 | |
| 2) 抗生剤の種類と臨床薬理(2) | 1 | 講義 | 吉田 | |
| 3) 各種抗生剤の適応と使用方法(1) | 1 | 講義 | 金井 | |
| 4) 各種抗生剤の適応と使用方法(2) | 1 | 講義 | 金井 | |
| 5) 各種抗生剤の副作用(1) | 1 | 講義 | 永井 | |
| 6) 各種抗生剤の副作用(2) | 1 | 講義 | 永井 | |
| 7) 感染徴候がある者に対し使用するその他の薬剤の種類と臨床薬理 | 1 | 講義 | 原 | 平田 窪川 |
| 8) 感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の適応と使用方法 | 1 | 講義 | 原 | |
| 9) 感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の副作用 | 1 | 講義 | 永井 | 林・小林 (演習のみ) |
| 10) 感染徴候がある者に対する薬剤投与のリスク (有害事象とその対策) | 1 | 講義 | 原 | |
| 11) 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準 (肺炎、尿路感染症、CDI、MRSA のペーパーシミュレーションを含む) *e-ラーニング学習と演習との併用による授業 | 4 | 演習 | 岡・原 | |
| 科目修了試験 | 1 | 試験 | | |

感染に係る薬剤投与関連

| | | | |
|------|---|------|-------|
| 科目名 | 臨地実習 | 時間数 | 30 時間 |
| 指導者 | 平田 修司、窪川 佳世 | | |
| ねらい | <p>1) 特定行為研修の共通科目および区分別科目の講義・演習によって習得した実践的な理解力、思考力および判断力ならびに高度かつ専門的な知識および技能を向上する能力を統合することで、医師の指示のもと、手順書により特定行為を行う能力を身に着けることができる。</p> <p>2) 多様な臨床場面において、医療関連感染症および耐性菌感染症の重症化を防ぎ、治療の早期開始と適正化を図るために、診断のプロセスと治療方針を理解し、手順書により必要な特定行為を安全に実践するための能力を身につけることができる。</p> | | |
| | 単元 | 実習時間 | |
| | <p>1) 身体所見および検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認できる。</p> <p>2) 感染徴候時の薬剤投与の必要性を判断し、投与案が立案できる。</p> <p>以下の状況の事例を受け持ち、主要疾患のフィジカルアセスメント、病態の判断、特定行為の必要性の判断、実施する。</p> <p>感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与 5 症例以上</p> | | |
| 評価方法 | <p>実習出席日数、実習態度、実習記録、自己の課題達成度から実習評価基準に基づき総合的に評価する。</p> | | |